

## 使い勝手の良い LCC ターミナルについて一言

2013 年 5 月 24 日

森崎 和則

2010 年 10 月 28 日に共用開始をした関西空港(以下 KIX)第2ターミナルビルは今年 1 月に、国際会議運営会社セラピン社(英国)から「Low Cost Airport of The Year 2013」に選ばれた。

日本の空港で低コスト化を積極的に具現化した Low Cost Terminal の第 1 号となったことが受賞の理由だ。

KIX の第2ターミナルビルは現在同空港を基地としている Peach Aviation(以下 Peach)のみが国際線、国内線合わせて 1 日 19 便(片道)使用している。

筆者は今年 3 月に Peach の KIX 発 FUK(福岡)行きの便を利用した。その際にこの第2ターミナルビルの設えについて気が付いたことを紹介したい。

ターミナルビルの内装は簡素であるが天井が高く清潔感のある建物というのが第一印象であったが、次にロビー全体を見渡すと人が少ないためかとにかく広い。自動チェックイン機のエリアや有人カウンターが情景に馴染んでしまって目立たない程であった。

一般的な大空港の喧騒を思えばゆったり感は十分すぎるほどであるが、果たしてこのロビーを埋め尽くすほどの人がここに入ることがあるのかと余計な心配をしてしまった。



広いロビーではチェックイン機が小さく見える

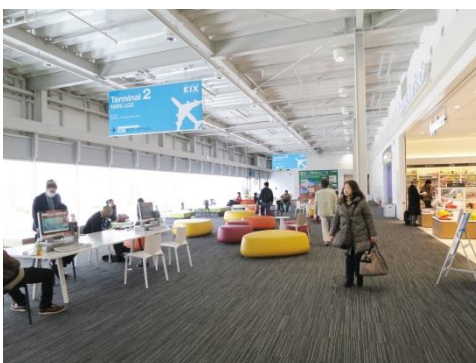
チェックインを終えて搭乗待合室へ進むと、そこも建物自体は簡素そのものだが、大きなガラス窓から差し込む外光と色とりどりのソファが明るい雰囲気を出していた。あまり広くないロビー内を見て回ってみて「あれー！」と思う場所があった。それは搭乗ゲート(改札口)が1か所しか、見当たらないのだ。



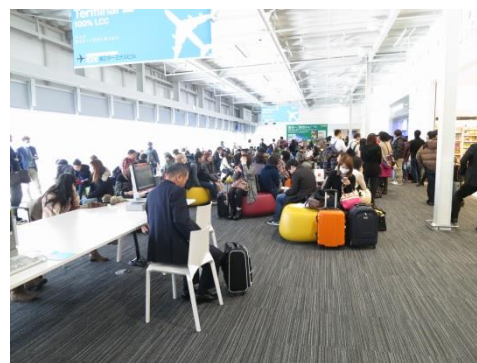
国内線用唯一の搭乗ゲート

(ここで改札を終えてコンコースを歩いて駐機場に向かう)

搭乗時刻が近づいてくると待合室は満杯状態になっていた。その理由は筆者の搭乗予定の便の25分前に出発する札幌行きの便が遅れていること、更に私の便の後に出発する沖縄行き便に乗る乗客がロビーに入っている。平均搭乗率8割として3便分の乗客とすれば400人以上の人が溜まっているわけだ。



落ちついた雰囲気のロビーが



さて、搭乗は遅れている札幌行きの乗客から開始された。前述のとおりゲートが1か所なので同時に2便の改札は不可能である。その結果私の搭乗するFUK便の乗客は待たされることになり、便の出発も10分近く遅れて駐機場を離れた。ゲート数不足の影響で定刻に出発できる便まで遅れることとなってしまった。

出発ロビーと搭乗待合室の面積の取り方や、ゲート数について航空会社がターミナルを設置する空港ビル会社に対して要望を出した上で決定するはずであるが、最終的にはその要望の全ては反映されない場合もある。

KIXでは新関西国際空港(株)が2015年度中に新たにLCC用に第3ターミナルを整備する計画だ。また成田空港でも成田国際空港(株)が2014年度中にLCC専用ターミナルの完成を目指すこととしている。

旅客の利便性を重視したターミナルビルとするため、設置者である空港ビル会社はこれまで以上にデザインや設計面で利用者である航空会社のニーズをしっかりと聞き入れることを切望する。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてを閲覧者ご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

当資料は、この資料の作者が信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、当研究所としての見解ではなく、また当研究所はその正当性を保証するものではありません。内容は予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。また、当資料は著作物であり、著作権が保護されます。全文もしくは一部を転載される場合には出所を明記されるようお願いいたします。